

社報 (株)南信サービス 2018年度環境活動報告

2019年7月発行《編集・発行元》(株)南信サービス | SO事務局

環境目標の取組み結果

1. 新規顧客獲得（担当部署：営業部）

【目的】自社での処理を働きかけることにより環境改善の拡大を目指す。

【目標】100件以上の新規契約締結を目指す。

昨年度に引き続き、弊社の環境に対して重大な影響を与えるものとして営業活動による仕事を受注することを特定しました。その成果として新規契約締結を強化するべく、昨年度は65件以上の契約締結を100件以上になるように取組みをしました。

一応年100件だったので月平均として9件の獲得を目指してやってきましたが、月によって取れたり取れなかったり、また担当した仕事で直接現場仕事等に携わることもあって時間が取れなかった時もありました。ただ、昨年度取組みをしていたので、ある程度その時点での傾向と対策を取れて結果としては無事に100件以上の契約締結を達成出来ました。

次年度は目標が変わりますが、この2年間新規契約締結に取り組んだことを糧にして今後に活かしていきたいと思えます。また100件契約の中には1度だけの仕事も多々含まれており、継続的にいただける仕事を増やすべく今後も取り組んでいきたいと思えます。

2. 運転手の労働災害対策（担当部署：業務部車輜課）

【目的】運転手の労働災害の要因を無くすことで労働環境の改善を目指す。

【目標】運転手の労働災害の要因を特定し、上位2要因に対策を行い結果を検証する。

弊社での労働災害が複数回あったこともあり、労働災害対策を今年度の目標に掲げて取組みを行いました。

車輜課においては過去の経験から要因の上位2位までを特定しました。1位は汚泥吸引作業中にホースがあげられて激突したことを挙げ、これについては専用工具等で固定し、吸引開始時には声掛けすることにしました。2位は分離槽清掃時などは腰をかがめて作業するために腰を痛めやすいので、作業開始前にストレッチ等の体操を実施することにしました。また、ドラム缶等積込み時にはドラムポーターを使用することとしました。結果としては上記2要因についての労災は無かったので、対策も出来ていきますし達成としました。

今後もこの2要因についての労災が起きないように対策を継続していくことが大事ですので、引き続いてやっていきたいと思えます。

3. 収集運搬車輛の臭気対策（担当部署：業務部施設課）

【目的】汚泥運搬車輛（ダンプ等）の臭気を削減させることで臭気苦情0を目指す。

【目標】汚泥運搬車輛における汚泥の臭気を出来るだけ漏洩させない方法（構造等含）を確立する（次期車輛購入時より採用する）。

この1～2年臭気による苦情をいただくことが複数回あったため、臭気苦情0を会社として目指そうと取り組みました。

車輛課としては、ダンプで脱水汚泥を運搬中の臭気が一番気になっていたため、6月に新車購入も決まっていたため、新車を活用して臭気対策に取り組むことにしました。

結果としては特に夏季（6～10月）には臭気が出るが、消臭剤を噴霧することによりかなり抑えられた。また逆に冬季は臭気が低く、また消臭剤も凍結する恐れがあるのでしなくても大丈夫だと思われます。

今後も臭気測定を継続して行って経過観察をしていき、消臭剤の希釈率等もデータを取って無駄に撒くことのないように、ただ必要な量はしっかり撒けるようにしていきたいと思ひます。

次年度も継続して取り組み、新車に設置した消臭剤噴霧器を既存車輛にも取り付けて、次期購入車にも随時取り付けたいと思ひます。

4. 工場の労働災害対策（担当部署：業務部施設課）

【目的】工場内の労働災害の要因を無くすことで労働環境の改善を目指す。

【目標】安全衛生に関する作業手順書別表1に記載の危険作業箇所に対し、労働災害発生時の重大性を検証し、上位3件に対策して結果を検証する。

弊社での労働災害が複数回あったこともあり、労働災害対策を今年度の目標に掲げて取り組みを行いました。

施設課では危険作業箇所リストが以前作成済であったため、それを基にリスク評価を行って対策しました。汚泥リサイクル施設と加温油水分離処理施設では転落危険箇所があり、それぞれ手摺設置等の対策をしました。また、後処理施設は熱中症対策をいくつか検討実施しましたが、夏季終了時には結論が出ませんでした。その他腐食箇所の交換や補強、リスクレベルの高い箇所に対する教育等取り組んでリスクを1年間で減らすことは出来たと思ひます。

次年度も継続して取り組むので、熱中症対策を継続していきます。また、今年度取り組みしていない上位4位以下のものにも対策を行っていきます。

5. 工場の臭気対策（担当部署：業務部施設課）

【目的】工場内の臭気要因を全て特定し、臭気苦情0を目指す。

【目標】工場内の臭気要因を全て特定し、各施設で可能性及び影響度を検証し、各施設上位2件に対策を行い結果を検証する。

この1～2年臭気による苦情をいただくことが複数回あったため、臭気苦情0を会社として目指そうと取り組みました。

施設課としては汚泥リサイクル施設、有機性汚泥脱水処理施設、油水分離施設の3施設に分けてそれぞれの施設から発生すると思われる臭気の影響度等上位2件に対して対策を検討しました。

汚泥リサイクル施設としては汚泥受入棟入退室時と炭化設備メンテナンス時への対策を検討しました。汚泥受入棟入退室時への対策は大掛かりなものになってしまったため、次年度も引き続いて対策していきます。有機性汚泥脱水処理施設は受入槽受入時と貯留槽の曝気によるものを対策しました。この対策は完了しました。油水分離施設は生物処理設備の沈殿汚泥引抜き時と施設建屋内の対策をしました。施設建屋内の対策については今年度完了とはいかなかったため、次年度も引き続いて対策していきたいと思えます。

6. 環境保全意識の向上（担当部署：全部署共通）

【目的】環境保全活動への取り組みなどにより、環境に対する意識の向上を目指す。

【目標】環境保全活動を行いつつ、社員の環境に対する意識改革を行えるような方法を検討し、2件実行して結果を検証する。

自社及び他組織の環境保全活動を積極的に行うことで社員の環境意識を向上させようとして取り組んでいます。

防火水槽の清掃は松川自治会2箇所については行いましたが、その他町内よりの要望はありませんでした。また、松川自治会及び弊社駐車場近辺のゴミ拾いは防火水槽の清掃に合わせて春秋の2回行いました。自治会周辺のゴミはあまりありませんが、松川沿いの道沿いには相変わらずゴミがたくさん落ちていきますので、引き続いて行っています。

また、環境意識の改革をしようと取り組みはじめ、各会議にて環境に関する時間を設けたり、パトロールを実施したりしました。パトロールについてはその場で写真を撮って指摘したことにより、指摘された箇所の意識の共有がしやすかったのか、目に見えて効果が出てきていると思えます。

その他エコキャップ活動や、協会のゴミ拾い活動に参加しました。

リスク及び機会

■ リスク

臭気発生及び労働災害による社会的信頼性低下及び労働環境悪化、他社との価格競争激化及び処理原価上昇による利幅減少、自然災害の影響による作業の停滞等、環境意識低下による社会的信用性低下及び環境悪化

■ 機会

法等規制強化対応による社会的信頼性向上、適正な教育を受けた力量を持つ人員確保による遅滞ない処理、設備投資による設備改善及び遅滞ない処理

< 潜在的な緊急事態 >

施設全般	火災や地震等による設備の故障や焼失等、及び消火剤等の河川への流出
油水分離処理施設	油類漏洩による河川への流出 硫化水素発生による拡散
油水分離、有機 収集運搬業務	天竜川への排出水が汚濁（水質悪化） 車輛事故及び故障による荷物の漏洩等

環境側面報告

■ プラスの著しい環境側面

- ・ 会社全体 自社処理働きかけ、資格取得、臭気騒音監視活動
- ・ 収集運搬 汚泥収集、廃油収集
- ・ 汚泥リサイクル施設（焼却） 再生油使用、ばいじんリサイクル
- ・ 汚泥リサイクル施設（乾燥炭化） 再生油使用、炭化物リサイクル
- ・ 有機性汚泥処理施設 処理水還元
- ・ 油水分離施設 処理水還元、無機汚泥リサイクル、再生油精製

■ マイナスの著しい環境側面

- ・ 収集運搬 作業時移動時臭気発生
- ・ 汚泥リサイクル施設（焼却） 排ガスの排気<緊急時>

環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

■大気汚染防止法	遵守しています
■水質汚濁防止法	遵守しています
■廃棄物処理法	許可更新あり 産廃収集運搬（愛知県＜優良＞、静岡県） 特管産廃収集運搬（長野県＜優良＞） 特管産廃処分（長野県＜優良＞）
■消防法	遵守しています
■ダイオキシン類対策特措法	遵守しています
■P R T R法	遵守しています
■毒劇物法	遵守しています
■省エネ法	該当せず
■温対法	非エネルギー起源…該当（報告書提出）
■小型家電リサイクル法	実績なし
■家電リサイクル法	変更なし
■自動車リサイクル法	変更なし
■オフロード法	実績なし
■グリーン購入法	遵守しています
■フロン排出抑制法	遵守しています
■肥料取締法	遵守しています
■放射性物質汚染対策特措法	遵守しています
■環境教育推進法	遵守しています
■河川法	遵守しています
■労働安全衛生法	遵守しています
■環境配慮契約法	適合しています
■地元協定	適合しています

2018年度遵守状況の評価の結果、遵守されてきました。
違反、訴訟等もありませんでした。

代表者による全体の評価と見直し

豊丘支店は人手不足で担当予定の者が運転手としても飛び回っている現状のためISOの着手は未定とする。労災臭気苦情0を今後も進めてもらっていきたいが、危機回避に係ることなので計画に縛られることなく対策してもらいたい。また、携わる者としてゴミの分別の理解を深めてほしい。

環境方針

当社は、廃棄物の収集運搬及び中間処理事業活動を通して、環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的改善を行うことで、環境汚染予防及び関連するその他の環境保護に取り組みます。

関係する環境関連法規、条例、地元協議及び同意するその他の要求事項を遵守します。

また、以下の事項を考慮に入れつつ、技術的・経済的に可能な範囲で環境目標を設け、その達成に向けた活動を定期的に見直しなが推進します。

1. 廃棄物処理施設の運転管理向上
2. 資源・エネルギーのリサイクル向上
3. 廃棄物量削減
4. 環境保全意識の向上

以上を指針とし、地域社会に貢献するとともに、自然環境を尊重し、明るい未来のためにまい進します。

2016年2月6日 代表取締役 竹村 博文

組織図

